


<p>学年 教科 単元名</p>	<p>4年生 総合 「伝え合おう私たちの心」</p>	
<p>教科の目標</p>	<p>目の不自由な人のためにべんりな機能がついたせん風機を作ろう</p>	
<p>プログラミングソフト</p>	<p>レゴWeDo</p>	
<p>準備物</p>	<p>レゴWeDo・プログラミングブロック 掲示</p>	
<p>プログラミングソフトを活用した利点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたアイデアが形になる。 ・考えたプログラムをすぐに実践できる 	
<p>成果 (児童の様子、変化など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えたアイデアが形になることがうれしくて、子どもたちは意欲的に取り組んでいた。目の不自由な人の立場に立って物事を考えることができた。 ・うまくできなかった班も、どうしてできないのだろう、どうしたらいいのだろうと班の友達同士相談して協力しながら制作する姿が見られた。その後の交流では、うまくいかなかった班を取り上げ、どうしたら思い通りに動くのかを全体で考える時間を設けた。プログラムには順序があり、正しく並べないと動かないことに気づいた。 ・思い通りのものができた児童は、より便利な機能を考えていた。次はこんな風に動くといいな、どうやってプログラムすれば良いか考えてみたいと、さらなる課題への意欲が見られる児童もいた。 	
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハードウェアを作ることに重点をおいてしまった班があり、プログラミングする時間がほとんどなかった班があった。 →ある程度の形は決めておいて、プログラムを作ることに集中させられる指導計画にしておく必要があった。全員が同じ目的をもって制作をしてもよかったのかもしれない。 ・総合の目標とプログラミングの目標との兼ね合いが難しいと感じた。どちらの目標も達成しなければならないのは難しい。 	

